

## 博士論文の要旨及び審査結果の要旨

|         |   |
|---------|---|
| 氏名      | LI Ye   |
| 学位      | 博士(学術)  |
| 学位記番号   | 新大院博(学)第100号  |
| 学位授与の日付 | 令和3年3月23日   |
| 学位授与の要件 | 学位規則第3条第3項該当  |
| 博士論文名   | 内モンゴル自治区における民族文化教育についての実証研究<br>—農耕地区と牧畜地区のモンゴル民族学校を事例に— |
| 論文審査委員  | 主査 准教授 杉原 名穂子<br>副査 教授 渡邊 登<br>副査 准教授 広川 佐保             |

### 博士論文の要旨

本論文は、中国の民族教育政策の中で、主に素質教育、新課程改革、民族文化採用政策の展開を研究背景とし、多元文化教育の視点から内モンゴルの農耕地区と牧畜地区におけるモンゴル民族学校の民族文化教育について、その現状および問題点を実証的に提示することを目的とする。そのため、農耕地区としてフレイ旗、牧畜地区としてウーシン旗を調査地点とし、モンゴル民族学校を対象に質問紙調査およびインタビュー調査を実施し、地方および民族の歴史、文化、習俗を保護し、伝承する取り組みについて、地方課程、学校課程、民族特色興味クラス、学校主催の各種民族文化活動を事例とした実証研究を行った。

その結果、産業化・都市化の進展により両地域とも家庭において民族文化の流出がすすんでいること、民族学校においては地方課程や学校課程により、民族や地方の文化・歴史の伝承の試みがすすめられていること、農耕地区より牧畜地区においてよりその動きが盛んであることが明らかにされた。

本論文は、以下のとおり構成されている。

第一章では、国家の経済・文化・教育政策による内モンゴル地区の民族文化の変化に関する先行研究を整理し、本論の位置づけを提示する。中国では、グローバル化、都市化が進展する中、地方文化振興政策が実施され、地方および民族文化を保護し、発展させる組織的取り組みが行われている。民族文化教育についてのこれまでの先行研究を詳細に記述し、3つの問題を取りあげ本論文の課題を提示した。まず、研究対象の偏りについてである。2点目は学校課程

と地方課程の実施の現状について実証研究が少ないことである。3点目は、農耕地区と牧畜地区においてそれぞれ生活文化方式が異なり、民族文化の現存状況は大きく異なることが想定できるにもかかわらず、地域社会による民族文化教育の差異について十分な研究蓄積がなされていないことである。

第二章では、前章の検討をふまえ、本論の研究目的、地域設定の理由、調査地の概要を提示する。研究目的は、内モンゴルの農耕地区と牧畜地区におけるモンゴル民族家庭の子どもに対する民族文化教育の現状を考察し、それぞれの地域の民族学校における民族文化教育の実態および問題点を明らかにすることとした。それらの分析を通して、学校における民族文化教育がモンゴル民族の伝統文化の伝承に及ぼす影響を考察し、モンゴル民族教育の将来における課題を展望する。

以上の研究課題を明らかにするために、フレイ旗とウーシン旗を研究調査対象地とし、2016年5月20日から2019年1月20日にかけて、5回に渡り現地調査に入り、学校の教師、生徒、保護者に対してインタビュー調査および質問紙調査を行った。調査対象校は、いずれもモンゴル語で授業を行っているモンゴル民族学校で、それぞれの地域の幼稚園、小中学校、高校である。民族文化教育の現状をさらに詳しく把握するために、その間継続的に電話調査を続けた。

第三章では、中国の建国以来の民族教育政策を整理し、その中で素質教育と新課程改革と民族文化採用政策において、民族文化教育が如何に展開されるようになったかについて詳細に記述した。

第四章では、内モンゴルの地域社会文化に注目し、農耕地区と牧畜地区のモンゴル民族家庭における民族文化の伝承現状を把握するとともに、地域間と世代間での家庭における民族文化教育の変化、相違点を明らかにした。その結果、両地域とも子どもの学業重視、親子間での交流の減少などにより、家庭を通じた民族文化の伝承内容が大きく減少していること、家庭教育は民族文化を伝承する機能を失いつつあることが明らかになった。

第五章では、農耕地区として通遼市フレイ旗のモンゴル民族学校を対象に、教師と生徒へのインタビュー調査を通して、学校課程、興味クラス、民族文化活動における民族文化教育の実施状況および問題点について分析した。その結果、民族文化教育が日々改善され、強化されている現状が明らかになった。地域および民族の歴史、文化、習俗を保護し、伝承する上で、学校教育が果たす大きな役割について示唆された。他方で、試験重視主義に陥り、民族文化への価値意識が低迷化している問題が起きていること、授業時数と専門教師と教育経費が不足し、教師自身における民族文化知識レベルが低いことが問題点として提示された。

第六章では、前章と同様の問題意識にもとづき、牧畜地区としてオルドス市ウーシン旗のモンゴル民族学校で調査を実施し、民族文化教育の実態を考察した。そして、学校課程においては教師が指導力を十分発揮し、地域と民族の歴史および文化習俗についての知識を取り入れた学校課程の教材を開発していること、生徒にとって民族文化についての興味を引き起こし、理解を深め経験できる重要な教育場となっていることなどが明らかになった。さらに、学校と地

域と保護者は協力し合い、地域の文化資源を効率的に活用し、多彩多様な民族文化活動を行っている現状も詳述された。他方で授業時間数や教育に必要な人材を養成する課題も示された。

第七章では、フレー旗とウーシン旗の地方課程の教育状況についてその実態を分析した。その結果、両地域では地方課程を通して民族の歴史および文化習俗を保護し、伝承することが可能であること、教師と生徒は民族の歴史および文化習俗が失われつつある事態を意識し、それらを積極的に勉強していることが明らかになった。しかし、地方教育関係部門と学校管理者の地方課程に対する態度により、両地域では、民族の歴史および文化習俗を伝承する教育の効果が異なる現状も明らかになった。

前章までの調査分析を通し、終章では研究課題についての結論を記述し、本論文の特色および独自性、問題点と今後の課題について述べた。モンゴル民族家庭では、民族文化の伝承機能は失われつつある。民族文化の流失、変動は、牧畜地区より農耕地区の家庭において大きい。民族学校では、地方課程、学校課程、民族特色興味クラス、民族文化活動を利用し、地域の特色と強みを活かし、民族文化教育を積極的に行う取り組みがみられる。地域による違いでは、農耕地区であるフレー旗より、牧畜地区であるウーシン旗の方が家庭と学校教育において、民族文化教育が盛んである。これは両地域の歴史と文化に違いがあるにとどまらず、地方政府の経済、教育資金投入、教育行政部門や学校管理者、教師の関心や価値意識の相違などによる。これらを実証的に明らかにできたのが本論文の特色である。最後に、地域が2地域に限定されていることが本研究の限界であり、今後、理論的な研究の深化を図るとともに、地域と調査対象者を広げ、民族文化教育にかかわる多くの課題に取り組む必要があると述べられた。

#### 審査結果の要旨

本論文は従来実証的に明らかにされてこなかったモンゴル民族学校における民族文化教育の現状を詳細に記述し、検討を行ったものである。先行研究の綿密な検討、詳細なデータ収集と分析は、学術論文として高く評価できる。特に、学校現場の教師の実践について複数の手法でデータ収集を行い、多角的に検討することで、制度や資源のみならず、当事者の価値意識や学校で伝達する民族文化を描くことができた点は、本論文の独創的なところである。彼らの民族文化教育を描くことにより、そもそも民族文化とは何か、という問題をも提起することになった。本論文ではそこまで検討が及ばなかったこと、また地域が2地域に限定されることによる知見の限界は認められるが、それらは本論文の学術的価値を損なうものではなく、今後のさらなる研究の深化を示唆するものであるといえる。

以上の審査結果から、本論文審査委員会は、全会一致で、本論文が博士論文としての水準に達しており、博士（学術）の学位を授与するに値するものと判断した。